

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・重点目標や事業の目的を行政定例会や年度末の振り返りでそれぞれの役割を確認しながら事業計画を立てることができた。
- ・区と拠点両方の視点で意見交換を行うことができた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・既存のネットワークを活かし、地域の子育て支援団体とつながれるような工夫を行う。
- ・引き続き、区や拠点が把握した子育て家庭や子育て支援の担い手の声を共有し、事業計画に反映させる。
- ・年度末の振り返りで目指す拠点の姿を確認し、事業の進め方について検討を重ねる。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・行政定例会で事業の実施状況や参加者の様子を共有し、利用者のニーズに合ったプログラムとなっているか振り返りを行い、適宜工夫・改善を行った。
- ・区と地域子育て支援拠点がそれぞれの強みを生かして、子育て支援に取り組むことができた。
- ・地域支援で得られた市民の声を事業に反映させていくために共有を行っている。
- ・「旭区子育て支援連絡会」「旭区子育て広場連絡会」「地域サロン交流会」等で担い手の声を聞く機会を設け、区と拠点とで確認を行っている。またその声を受けて共に学ぶ機会を作り、区の協力を得ている。

【今後改善が必要と思われること】

- ・長期的な視点を持って、事業の方向性について検討を深める。
- ・地域の団体とのネットワーク構築に努め、連携のあり方について検討を行う。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・SNSを用いた情報発信や多様化している子育て世帯への支援について検討を行い、新たな情報提供方法や利用者のニーズに即したプログラムを企画・実施した。
- ・区と地域子育て支援拠点で実施したアンケート結果を用いながら振り返りを行い、拠点事業の周知、ボランティアの活用、関係機関とのネットワーク構築が今後の課題であることを共有することができた。□

【今後改善が必要と思われること】

- ・拠点事業の周知、ボランティアの活用、関係機関とのネットワーク構築等の課題について、区と地域子育て支援拠点で検討を重ね、4年目・5年目の事業運営に反映させていく。
- ・利用者及び地域の関係者の声や、アンケート等の客観的な指標を踏まえて、事業の振り返りや子育て家庭のニーズの把握に努める。